

高齢者がん患者の 在宅移行と生活を支える高度実践看護

—フレイル・認知症・移行支援・家族支援の観点からケアプランを作成する—

到達目標

1. 高齢がん患者の在宅移行において生じやすい身体的・心理的・社会的課題を説明できる。
2. フレイル、サルコペニア、低栄養、認知機能低下、併存疾患、多剤併用が、がん治療および療養生活に及ぼす影響をアセスメントできる。
3. 高齢がん患者の退院支援・在宅移行支援に必要な情報収集、リスク予測、地域資源との連携方法を説明できる。
4. 認知症または認知機能低下を有する高齢がん患者に対し、意思決定支援、症状マネジメント、服薬・治療継続支援の方略を検討できる。
5. 家族介護者の負担、葛藤、意思決定への関与を理解し、患者・家族双方を支える支援方略を検討できる。
6. 事例検討を通して、高齢がん患者の生活継続を支える高度実践看護者の役割、多職種連携、地域への橋渡し機能を具体化し、ケアプランを作成できる。

講義

オンデマンド形式：2026年9月配信予定

- 高齢がん患者の在宅移行支援と高度実践看護の役割（40分）
奥 朋子先生（訪問看護ステーション フレンド所長、がん看護専門看護師）
- 高齢者がん患者におけるフレイル・サルコペニア予防のためのリハビリテーション（40分）
立松 典篤先生（名古屋大学大学院医学系研究科 総合保健学専攻 予防・リハビリテーション科学 助教）
- 認知機能低下を有する高齢がん患者の看護（40分）
西山 みどり先生（有馬温泉病院 看護部長、老人看護専門看護師、認定看護管理者）
- 高齢がん患者を支える家族・介護者支援（40分）
中村 千里先生（聖マリアンナ医科大学 緩和ケアセンター、がん看護専門看護師）
- 高齢者看護の視点からみたがん看護実践（40分）
北川 善子先生（九州がんセンター、がん看護専門看護師）

オンライン形式：2026年10月15日（木）18:00-19:30

- グループワーク・討議
事例提供：フレイル・認知症・家族支援を要する高齢がん患者の在宅移行支援
北川 善子先生（九州がんセンター、がん看護専門看護師）

申し込み

- 申込方法：会員向けメーリングリストでご案内する申込フォームよりお申し込みください
対象：日本がん看護学会員である専門看護師・認定看護師
定員：約80名（先着順）
受講条件：全プログラムへの参加
（オンデマンド講義の全視聴及びオンライングループワーク・討議への参加）
修了証：全プログラムへ参加した方に発行いたします